







【視察調査報告書】

委員会名	厚生委員会
派遣委員	【委員】 8名 小林裕恵委員長、西山賢副委員長、石井宏和委員、五間浩委員、馬場貴大委員、鳴海有理委員、市川潔史委員、伊藤忠之委員
日 程	平成 30 年 5 月 16 日（水曜日）～ 18 日（金曜日）
視察先一覧	1 旭川市 『旭川市動物愛護センター「あにまある」について』 2 札幌市 『札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」について』 3 札幌市 『札幌市若者支援総合センターについて』
調査内容詳細	詳細は別紙のとおり
委員長所感 (意見・課題・ 本市への反映 など)	<p>1 旭川市 旭川市動物愛護センター「あにまある」について</p> <p>旭川市で行っている取り組みの多くはボランティアが担っている状況であるとお話を伺いました。本市では「動物センター整備に向けて準備を進めること」としており、議会でも動物愛護センター設置を求める発言があるものの、いまだに整備に向けた準備をしている状態です。また、不妊去勢手術の助成金は、手術費用の約半分程度で、残りはボランティアの負担であるため、動物愛護センターが設立されていない現状を考えると本市における助成金の拡充を求め、個人で活動される方の孤立を防ぐためのサポートを強化する必要があると感じました。</p> <p>2 札幌市 札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」について</p> <p>本市では、児童発達支援センターの増設を予定しているものの、広い市域に2カ所しかなく地域も偏っていることは課題であると考えています。また、発達障害に関する医療機関の初診の待機期間は、数ヵ月から1年近くといわれており、札幌市にもおいても同様の課題があるとお聞きしました。児童福祉法改正により障害児支援が強化され、本市でも障害児通所サービス等の利用者が年々増加しており児童発達支援センターの役割は、重要となっています。「ちくたく」は、医療と福祉の一元的な支援を目指す複合施設であり、利用者やその家族にとって、とても魅力的な施設だと思います。今後、本市の障害者福祉の施策展開を考えるにあたり参考になると感じました。</p> <p>3 札幌市 札幌市若者支援総合センターについて</p> <p>学校から社会への移行期にひきこもりやニートという課題を抱えた若者に対しては、就業や就職に向けて気軽に参加できる「場」が重要で、札幌市若者支援総合センターでは、その「場」作りを行うことによって、若者を支援しているのだと思います。</p> <p>本市には、若者支援総合センターに近い役割の施設として「若者サポートステーション」があり、主に就労に向けたサポート支援を行っていますが、就労以外でも高校生の進路決定の際、不安解消の相談を行ったり、若者のまちづくり活動やボランティア活動、仲間づくりや交流等、若者に対する支援は様々です。その中で、若者支援に学校が果たす役割は、とても大きく重要になってきます。本市においても就業だけでなく札幌市のユースワークの手法を用いて学校と連携した若者支援を行っていただきたいと思いました。</p>

調査内容	視察先	北海道旭川市（旭川市動物愛護センター「あにまある」）
	日時	平成 30 年 5 月 16 日（水曜日）
	調査項目	旭川市動物愛護センター「あにまある」について
	選定理由	本市は、中核市移行後、動物の愛護及び管理に関する条例を策定し、人と動物の調和のとれた共生社会の実現を目指している。負傷動物の保護収容、譲渡の推進などの施策を展開しており、動物愛護センターの整備は、その施策をより進展させるために必要な施設として設置に向けて準備を進めていることから、本市の参考とするため選定した。
	概要	旭川市は、動物収容管理施設の老朽化や設備が不十分であることから、中核市移行を機に、交通アクセスが良好で、市民にもわかりやすい市の中心部に動物愛護センターの建設を行い、平成 24 年に供用を開始。この、動物愛護センター「あにまある」は、「命の大切さを伝える施設」、「動物にやさしい施設」、「人と動物の正しい関係を学べる施設」を基本コンセプトとして、適正・終生飼養に関わる飼い主責任の啓発強化や、十分な収容期間を確保した中での譲渡の積極的な推進など、犬や猫の殺処分を極力低減する施策に取り組んでいる。
	主な質問	<p>問）動物愛護センターの年間の予算や不妊措置など内訳を伺いたい。</p> <p>答）年間維持費は人件費を除き、約 2,600 万円を見込んでいる。また、飼い主のいない猫の不妊措置事業に対する予算は、収容動物に使用している薬品類を含め 11 万数千円程度。麻酔の費用や手術の際の抗生物質なども使用しているため費用がかさむ。</p> <p>問）里親の事業を積極的にしているが、何か工夫をされていることがあるか。</p> <p>答）ボランティアの方がブログを立ち上げて、当センターのホームページより細かく情報を載せてくれている。また、愛護団体に再譲渡を目的として動物を引き取ってもらい、新しい飼い主が見つかった際は報告をあげてもらっている。</p> <p>問）運営において寒冷地ならではの特性があるか。</p> <p>答）地域猫は、寒さが厳しいため概ね 3～4 年で寿命がつきると見込んでいるが、暖かくて食べる物にも困らなければ、もっと長生きするため集中的に実施するなど方法を検討する必要がある。</p> <p>問）飼育崩壊や虐待など、市民から通報を受けることはあるか。</p> <p>答）飼い主の死亡や宅配業者から悪臭がするなど、さまざまなケースの通報があるが、虐待については、愛護センターの管轄ではないため、警察も含めて調査をすることになる。</p>
その他	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>説明の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>動物愛護センター視察</p> </div> </div>	

調査内容	視察先	北海道札幌市（札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」）
	日時	平成 30 年 5 月 17 日（木曜日）
	調査項目	札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」について
	選定理由	札幌市では、発達の遅れや障害のある子ども、心の悩みを抱える子どもなどを対象に、医療機能と福祉機能を併せ持つ複合施設を開設し、より適切で質の高い支援を総合的に提供している。この施設が中心となり、保育所や学校などの関係機関と連携を行い、地域社会全体で子どもを支える体制づくりについて、本市の参考とするため選定した。
	概要	札幌市子ども発達支援総合センター「ちくたく」は、子どもの身体や心の発達、情緒面や行動面の問題に対して、医療・福祉の一元的な支援を目指す複合施設である。児童精神科・肢体不自由児などを対象にした小児科、整形外科を持つ医療部門に加え、情緒障害児短期治療施設、福祉型障害児入所施設の入所部門、就学前の子どものための通所部門として児童発達支援センター（医療型・福祉型）があり、それぞれの部門が協働しながらひとりひとりの子どもに対して必要な支援を考えていく施設となっている。
主な質問	<p>問）児童心理治療センター「こころぼ」では、心理ケアが難しそうだが、どのような支援方法があるのか。</p> <p>答）虐待を受けた子ども達は、大人と一緒にいることで緊張感が高まりいろいろな形で問題行動を起こすが、食事や入浴など生活の場面で心理的な安定を図るようにしている。また、「こころぼ」にもセラピストがいるが、必要なお子さんには医療センターと連携して支援している。社会的なつきあいの中で、2～3年経過し落ち着いてきたら、本来いるべきところに戻っていくという形をとっているが大変難しい。</p> <p>問）学校はどのようになっているか</p> <p>答）中学校までは、施設内の「のぞみ分校」に転校をして通うことになる。</p> <p>問）医療的ケア児への対応についてはどのようにしているのか。</p> <p>答）以前は脳性まひ等の肢体不自由の方が多かったが、最近は気管切開や胃ろうなど、医療的ケアが必要なお子さんが増え、ひまわり整肢園・みかほ整肢園に通うお子さんの約半数になっているため、看護師を入れて対応している。</p> <p>問）18歳以降、退所後はどういう先につないでいくのか。</p> <p>答）子どものレベルにより異なる。それぞれの子ども達の今の状態と今後のことを考えたうえで、センターだけではなく児童相談所と連携して決めている。</p>	
その他	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>説明の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>子ども発達支援総合センター視察</p> </div> </div>	

調査内容	視察先	北海道札幌市（札幌市若者支援総合センター）
	日時	平成 30 年 5 月 18 日（金曜日）
	調査項目	札幌市若者支援総合センターについて
	選定理由	札幌市では、若者の社会的自立を総合的に支援するため、若者支援総合センターを開設し、社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者への支援を行っている。また、若者に活動の機会と場を提供する取り組みや、各種プログラムにより基礎的な生活習慣と社会性を身に付け就労につなげる取り組みについて、本市の参考とするため選定した。
	概要	若者支援総合センターは、引きこもりやニートと呼ばれる若者の総合相談窓口として、専門の職員が、相談者に合わせたサポート内容を判断し、コミュニケーション能力の向上プログラムなどによる支援や、就労支援機関や保健福祉機関等の紹介を行っている。また、若者の仲間づくりやまちづくり活動の支援、体育室や音楽室、活動室等の貸し出しなどの取り組みも行っている。
	主な質問	<p>問）引きこもりに対するご家族へのサポートも含め伺いたい</p> <p>答）月に一度、保護者の方が集まって意見交換をする家族の会で本人の様子を伺い、子どもに変化が出て来たタイミングで適切にセンターにつないでいる。また、医療と一体となった引きこもりに特化した相談の施設があり、専門性を有している外部の団体と連携しながら、ご本人のサポートを行っている。</p> <p>問）若者の社会参加促進事業の事例などはあるか。</p> <p>答）夜に商店街のアーケードでダンスをする若者が非常に多かったため、課題を聞き取り、センター内に無料で使えるダンスフロアを設け若者を積極的に呼び込んできた。若者が社会に出ていくというものではないが、地域の中での困りごとを、地域と一緒に改善してきた事例である。</p> <p>問）定着して働けるような就労先などはあるか。</p> <p>答）美容師など資格が必要な職業はあるが、なかなか難しい。IT企業と連携を結んでおり、パソコンを使った仕事を最初にやらせてもらい、そこからシステムエンジニアになるという育成を企業の方と一緒に実施してきた事例はある。また、まずはアルバイトなどで社会との接点をつくっていきたいという若者には、継続して関わっていきながら、自信がついた段階で、キャリアアップの相談に応じている。就職がゴールではなく、そこから職場に定着していくための継続した取り組みを行っている。</p>
その他	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>説明の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>若者支援総合センター視察</p> </div> </div>	